

姉妹都市松浦と マッカイ市植物園



マッカイの姉妹都市のなかで、最もアクティブな関係が、日本の九州にある松浦市です。この関係はマッカイ市のマッカイ松浦姉妹都市委員会と松浦市の松浦市国際親善協会によって保たれています。

両市の関係は、互いの市へ頻繁に訪問することで、豊富な情報と文化の交換を可能にしました。松浦市とマッカイ市との交流の中でのハイライトのひとつが、マッカイ市植物園の中の二箇所にあります。一つは日本庭園で松浦市のロゴを生きた植物で示しています。まず、赤い点は *Acalypha 'Firesprite'* という植物、緑色の曲線は *Pogonatherum paniceum 'Monica' - Baby Panda Grass* という植物、そして青い曲線は *Evolvulus glomeratus 'Blue Eyes'* という植物で表されています。

そして、隣にある世界の蘇鉄庭には、*Cycas revoluta* (サゴヤシ) が展示されており、日本の庭で、しばしば見ることができます。

ファーンアリー (シダを育てる専用のハウス) は売店と事務所の横にあり、ここは松浦市で設計され作られた、美しい彫刻の贈り物の住居となっています。

この作品は、白と黒の体に頭の赤いハイライトが特徴の、実物大の四体の丹頂鶴と、伝統的な日本の石灯籠、そしていくつかの石からなり、これらは定期的に二国間を行き来する多くの石炭運搬船を通して日本からマッカイまで運ばれました。

鶴は、日本の伝統的な習慣や昔話などで多く親しまれ、平和と長寿の象徴としても使われています。その鶴が、姉妹都市の贈り物

としてマッカイ植物園に贈られたのは決して偶然ではありません。それから、周辺の庭や木も一緒にご覧ください。この中には熟すのに何百年もかかる木もあります。石灯籠はマッカイではめったに見ることのできない、「雪見」と名づけられています。

このファーンアリーエリアは熱帯の「アジアスタイル」というテーマで、アジアとオーストラリア原産の植物がどのようにして一緒に展示できるかを示しています。また私たちの姉妹都市との絆もあらわしています。*Ophiopogon japonicus - Mondo Grass* (日本名:リュウノヒゲ) は日本から、そして *Neololeba atra - Iron Range Bamboo* は北オーストラリアからの植物です。

ファーンリーの庭に植えてあるいくつかの植物：

オーストラリア原産の植物：

Orthosiphon aristatus - Cats
Whiskers 北クイーンズランド州

Oplismenus sp. - A Rainforest
Grass マッカイ市

Neololeba atra - Iron Range
Bamboo 北クイーンズランド州

Pandorea jasminoides - Bower of
Beauty マッカイ市

Medinilla balls - headleyii
北クイーンズランド州

Pleomele angustifolia - Native
Dracena 北クイーンズランド州

Leptasis banksii マッカイ市

アジアからの植物：

Farugium japonicum -
Leopard plant
日本、中国、朝鮮（北朝鮮、韓国）

Rhapis excelsa - Lady Palm
東南アジア

Ophiopogon japonica - Mondo
Grass 日本

Ophiopogon japonica 'Nana' -
Dwarf Mondo Grass 日本

Liriope muscari 'Evergreen Giant'
日本、中国、朝鮮（北朝鮮、韓国）



Neololeba atra
Iron Range Bamboo
北クイーンズランド州



Pleomele angustifolia
Native Dracena
北クイーンズランド州



Ophiopogon japonica
'Nana'
Dwarf Mondo Grass
日本



For more information contact the Mackay Regional Botanic Gardens:

Ph: 07 4952 7300 | Fax: 07 4952 7333 | Email: botanic@mackay.qld.gov.au | www.mackayregionalbotanicgardens.com.au